

相続、遺言、葬儀、保険…

終活の知識深めて

相続、葬儀などの準備を元気づけようとしておく終活がブームになる中、一般社団法人終活カウンセラー協会（東京）は1月24日、札幌市内で「終活シンポジウム」を開いた。人生の後半を自分らしく過ごすためのカウンセラーを全国で養成している終活カウンセラー協会の活動やシンポジウムの内容を紹介する。

（編集委員・福田淳一）

終活カウンセラーとは相続、遺言、葬儀、保険、介護、年金などシニアの悩みについて相談者の話を親身に聞き、必要ならそれぞれの専門家に橋渡しをするのが役割だ。

終活カウンセラー協会は2011年7月に武藤頼胡代表理事らが立ち上げた。武藤さんが関わった葬送のセミナーで出席者の質問が葬儀だけでなく、お墓、献体、納骨など多方面にわたるのに接したことがきっかけとなった。国民の4人に1人が65歳以上の高齢者という超高齢社会を迎え、人生の最後の事柄についての水先案内人が必要との思いから、終活カウンセラーの養成を思い立ったという。

協会では初級、上級、インストラクターの3段階の資格を設定し、講座と検定試験を行っている。初級は葬儀やお墓の希望などを伝えるエンディングノートを自分で書ける水準。上級はエンディングノートを書く上でのアドバイスができる知識を持ち、人の話を聞いてカウンセリングができるほどのレベル。インストラクターは初級用の講座の先生役というのがおおまかな区分だ。

全国各地で開いている初級の講座はこれまでに約6500人が受けた。うち道内の人は約220人いる。受講者は葬儀社、保険業界、行政の関係者、僧侶、主婦らとさまざまな分野から集まっている。

24日の終活シンポジウムは、終活カウンセラー協会が道内で初めて開い

札幌で初シンポ カウンセラー養成も

終活カウンセラー協会が開いたシンポジウム。右が武藤代表理事

11月24日、北海道自治労会館



た。まず武藤代表理事が講演し、「私たちの協会は終活とは死ぬための準備だけではなく、人生の終焉を考えることで自分をみつめ、不安を解消し今をよりよく生きるための活動と考えています」と説明した。

次いで武藤代表理事、北海道文化放送（UHB）U型ライブのキャスター大村正樹さんらによるシンポジウムに移り、来場者へのクイズ形式も交えながら、埋葬、散骨、お墓、保険金、遺言書、生前贈与などの話題について考

来月、講座と検定

終活カウンセラー協会は3月28日午前10時～午後4時45分に北海道建設会館（札幌市中央区北4西3）で終活カウンセラー初級の講座と検定試験を行う。テキスト、受験、昼食代を含め受講料は9070円。申し込みは終活カウンセラー協会 ☎03・6426・8019へ。